

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北陸)		通信会社（役員）	販売量の動き	・インターネットや電話、テレビの新規や増設の契約数が増加している。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・株高により一部の富裕層の資産効果の影響からか、高額美術品の動きが好調である。また、化粧品は引き続き安定している。不振だった婦人服には回復傾向がみられる。
		乗用車販売店（役員）	お客様の様子	・自動車の購入を検討する際に、カーナビやドライブレコーダーなどの付属品への客の関心が高まっている。購入価格の増加に対して、以前よりも客の抵抗感が薄れているようである。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・10月の販売量は前年同月比103%の見込みである。3か月前の実績が前年同月比82%であったため、3か月前との比較で上向きである。
		その他小売 [ショッピングセンター]	販売量の動き	・例年より気温低下が早まり、羽織物や寝具などが順調であったが、一転して9月中旬並みの汗ばむ陽気となり、特に衣料を中心に動きが鈍って大苦戦した。食料品は旬の食材の入荷が順調で、野菜を中心に相場安が続いているため、メニュー提案がしやすく売上を維持できている。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比で総売上82%、宿泊人数82%、宿泊単価97%である。団体客が取れない状況が続いているが、個人客は前年比95%と健闘している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・秋の行楽のため、週末を中心に観光客が増えている。4～5人の小グループで2泊3日の観光客が多く、特に中高年の割合が増えている。
		通信会社（職員）	お客様の様子	・携帯電話のキャリア契約の変更は気軽にできるものではないが、店頭での販売数が増えている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・寒暖差が大きく、そのためアウターを検討する客が多くみられる。しかし、なかなか購買には結び付かない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・季節要因による先買いで需要期がずれているものの、全体的には変化がない。
		一般小売店 [精肉]（店長）	来客数の動き	・固定客は来店しているが、新規の客や若い年齢層の客の取り込みがうまくいっておらず、今後の課題である。
		一般小売店 [事務用品]（店員）	単価の動き	・仕入価格や配送コストの値上げ改定によって、利益確保がより難しくなっている。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・食品物産の催物はにぎわったが、各階への買い回り効果は薄い。要冷蔵品など目当ての食品だけを購入して、そのまま帰る客が多い。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・後半の天候悪化により来客数は伸びなかったが、重衣料の動きが早く、前年並みの売上が達成できている。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・安定しない気候の影響による野菜の不作、サンマやサケの不漁などで、売上確保が難しい。ただし、単価は下がっているものの、販売量は前年並みで推移していることから、景気の状態は変わらないと考える。
		スーパー（統括）	単価の動き	・3か月前とほとんど状況が変わらない。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・来客数と客単価に大きな動きはみられない。
		衣料品専門店（総括）	お客様の様子	・上向きになったといえるのは気温が下がった時だけである。根本から景気が良くなったとはいえない。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・ヒット商品がなく、10月は特に動きがない。
		家電量販店（本部）	販売量の動き	・商品によって販売量の動きに差はあるが、全体では横ばいである。
	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・例年であれば週末には来客数が多くなるが、今月は各店とも来客数が少ない。購買意欲が高まっているようにはみえない。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・特に目立った動きはないものの、自動車販売、整備共に販売計画は達成している。	
	自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・車検需要が減少する一方で、ドライブレコーダーや安全用品への関心が高まるなど、外的要因が来客数や売上に影響している。しかし、必要なものへの金の使い方は変わらず、良いものを選択する客が多いため、客単価は前年から下がっていない。	

	住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・例年と比較しても購入点数や単価の減少が進んでいる。
	その他専門店 [酒](経営者)	販売量の動き	・営業状態は、とにかく静かで暇である。酒を納入している料理屋から聞いた話では、衆議院選挙があったため来客数が伸びなかったということである。
	その他小売 [ショッピング センター](統括)	お客様の様子	・シネマが前年比で引き続き苦戦しており、館全体の来客数でも前年を割っている。また、同様に衣料品も下回り、食料品や日用雑貨、書籍でも苦戦している。ただし、飲食やその他業種については来客数が少ないながらも売上高が前年を超えており、客単価と購買率は堅調に推移している。
	観光型旅館(経営者)	販売量の動き	・9～10月の2か月間は、耐震補強工事のために客室のうち30室が使用できなかった。また、週末に大型台風が来た影響などで、北陸新幹線開業前の売上にまで落ち込んだ。
	都市型ホテル (役員)	販売量の動き	・宿泊部門は堅調に推移しているが、レストラン部門と婚礼部門は厳しい状況にある。一般宴会は企業周年イベントやコンベンションによって若干良いが、全体でみると景気動向は変わらない。
	旅行代理店(所長)	販売量の動き	・前年比で売上の伸びが全くない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・朝夕の予約が以前より多くなっている。忙しくなっているが、一般客の利用は少し減少している。
	通信会社(営業担当)	販売量の動き	・新商品が発売されたにもかかわらず、販売量が予想を下回り、伸び悩んでいる。
	通信会社(役員)	販売量の動き	・契約獲得件数は、過去数か月では前年を大きく下回って推移していたが、今月はやや持ち直している。衆議院選挙の結果を受けて、消費者心理に改善傾向が出てきたのではないかと考えている。
	その他レジャー 施設(総支配人)	来客数の動き	・大人の会員数は維持できているが、子供の会員数が減少している。また、大手企業から健康経営に関連する依頼が出始めているが、ごく一部である。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・ここ数か月は、客単価のアップによって前年売上をクリアしている。しかし、毎月の来客数は前年割れとなっており、今後が不安である。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・契約件数、契約金額共に前年よりやや増えており、今後もしばらくは続きそうである。消費税増税の時期がほぼ決定となりそうなので、それまでは契約金額は安定すると考える。
	住宅販売会社 (従業員)	それ以外	・受注件数は前年並みだが、受注価格が低く利益は出ない。
	商店街(代表者)	販売量の動き	・2週間にわたり土日にデパートで子供向けのイベントが開催され、多くの人出があった。それにもかかわらず、その波及効果による売上増が全くなかった。ここ数年では珍しい。
	一般小売店[書籍] (従業員)	販売量の動き	・来客数の減少に加え、販売量の落ち込みが目立ち始めている。
	一般小売店[鮮魚] (役員)	販売量の動き	・北陸新幹線開業から2年半経過し、さすがににぎわいが落ち着いてきた。飲食や旅館などでも売上が前年割れしているとの声をよく聞くようになった。
	百貨店(営業担当)	来客数の動き	・例年よりも気温が低く、秋物商材への関心が高まると期待していたが、台風や衆議院選挙などの影響によって来客数、購入金額共に減少している。優待会や催事でも集客に苦戦する状況である。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・前年の野菜の相場高の影響によって、売上前年比は減少している。野菜は高くても売行きが見込める商材であるが、単価ダウンの傾向が顕著である。
	スーパー(総務担当)	単価の動き	・来客数は前年を維持しているが、客単価が減少している。特に1品単価が減少しており、より安い特売品の割合が増加している。
	スーパー(店舗管理)	来客数の動き	・10月に入って急激に来客数が落ち込んでいる。競合店の新規出店や改装オープンが続いているが、原因はそれだけではないと考える。
	コンビニ(経営者)	来客数の動き	・客単価は微増であるが、来客数の落ち込みが大きい。行楽客の立ち寄り回数が少ないようである。来店客はたくさん買って行くのだが、そもそも行楽に行く人が少ない。

	コンビニ（店舗管理）	販売量の動き	・地元ブランド米の売出しキャンペーンが大盛況であったため、月間売上が前年を超える好業績であった。一方で、この効果がなければ前年を大きく割り込んでいたかもしれない。O157の事故が総菜販売にとって逆風となっている。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・9月にポイントを2倍利用できるキャンペーンを実施し、前年比120%を超える集客があった。そのため、今月は完全にその反動を受けた状態である。
	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・急な衆議院選挙となり、人の動きが悪くなった。また、週末の台風上陸が重なって予約キャンセルが出ている。
	一般レストラン（統括）	来客数の動き	・9～10月の来客数が前年同時期に比べると悪く、ここ最近で最も悪い状況だった。食材供給先に聞いても同様の状況である。10月下旬ごろより少し回復基調となっているものの、台風や衆議院選挙などで外食産業にとっては良くない状況である。
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・全体的に堅調に推移してきたが、10月に入ってレストランや宴会部門の売上が前年を割り込んでいる。宿泊部門は前年並みである。レストラン客は引き続き価格に敏感で、販売価格の値下げや原価を上げて割安感を出さないと売れない。一方で、仕入価格は天候の影響などで値上がりしており、収益を圧迫している。さらに、重油が前年より2割以上値上がりして収益悪化の要因にもなっている。
	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・前年と比べて10月は、台風を始め天候の悪い日が続いた。衆議院選挙もあって、国内の旅行客の動きが前年比でやや悪い。
	住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・例年の来客数に届いていない。
	x	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子
	x	スナック（経営者）	来客数の動き
企業 動向 関連 (北陸)	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・米国市場は順調に受注できている。欧州市場では、大型見本市出展以降に商談が決まり、受注は伸びている。また、国内市場も好調である。しかし、受注は伸びているものの、機械を作る基幹部品の納品が滞っており、生産できないという問題が発生している。
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が好調に推移している。
	建設業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・当地域では工事発注量が増加してきたが、当地域の一部においては厳しい受注価格競争が続いている。
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・円安が続く現状から、今後しばらくは輸出が好調に推移するとみている。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・3月決算期企業の9月中間期の収益着地見込みを聞くと、メーカーや卸売業者、小売業者共に総じて堅調である。特に、輸出と国内出荷が共に順調であるため、地元の機械メーカーとそれに連なる下請企業群の業績が更に伸びている。
	司法書士	取引先の様子	・不動産業者や建設業者の話では、不動産は動いており忙しいとのことである。
	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・コンビニエンスストア向けの商品が引き続き好調である。しばらくはこの傾向が続くと見込んでいる。
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年同期並みの受注は何とか確保できているが、決して受注環境は良くなっていない。衣料品関係の国内消費の低迷が起因している。
	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・衣料関係の消費状況が非常に厳しいなか、販売数量が前年比で変わらないということは大健闘といえる。非衣料分野については安定している。
	精密機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・展示会等での当社の受注量は前年を上回っている。ただし、全体的には若干増加傾向にあるものの、大きくは変わっていない。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・手持ちの工事はそこそこあるが、この時期になかったら大変である。従業員の残業時間をチェックしても残業は増えておらず、景気が良くなっていると言うほどではない。

	金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き	・夏場からの、週末に重なる天候不順や台風の影響によって、地元観光地の入込客数が前年と比べて良くない。
	税理士（所長）	取引先の様子	・最近の景気は大きくマイナスというものはないが、プラスになる要因もない状況である。ただ、売上高のベースをみると過去最高には届かないが、経費が削減されていて順調であったり、退職者が出ても採用ができないことから人件費が効率化されて利益が出ているといった、消極的な利益が上がっているという感じがある。
	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・新設住宅着工戸数が前年同期比でやや減少傾向で推移している。それと同様に住宅業界の売上や受注は伸び悩んでいる。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者の話によると、忙しい様子はない。問い合わせがないという人が多かった。特に、個人客からの問い合わせが少ない。
	x	-	-
雇用 関連 (北陸)		-	-
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・求人広告件数は前年より落ち込んでいるが、正社員の比率が前月より上がってきている。正社員需要がまだまだ落ち着いていないことから、企業の人手不足感がうかがえる。
	新聞社〔求人広告〕（営業）	周辺企業の様子	・各企業の広告出稿に対する姿勢が前向きである。実際に、ここ2か月の出稿量が少し上向きである。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・製造業を中心に、2次募集の案内が前年同時期より多い。
	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・求人需要は減ってはいないが、適材となる求職者数が全く伸びず、マッチング率が悪い。
	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者数は少ない傾向のまま変わらない。企業からの求人に対して紹介可能な求職者を確保できずに苦慮している。
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告1回の発行で、求人数がほとんど変わらない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は、前年と比べると増加傾向にあるものの、横ばい状況になってきている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・9月の新規求人数は4,912人と、前年同月比で15.8%、前月比でも18.3%と増加している。また、前年同月比においてフルタイムでは23.5%、パートタイムでは6.5%の増加となっている。
	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・直近の求人には、単発的な業務や催物対応など短期の需要が多い。その影響もあって募集しても応募者の集まりが悪く、常に人手不足であるのだと考える。
	-	-	-
	x	-	-